

Ⅲ. 回答者の基本属性

1. 年齢構成と居住地

回答者の性別年齢構成は図1のとおり、男女共に「60歳以上」が多い他は、多くの年齢区分はほぼ均等に構成されている。

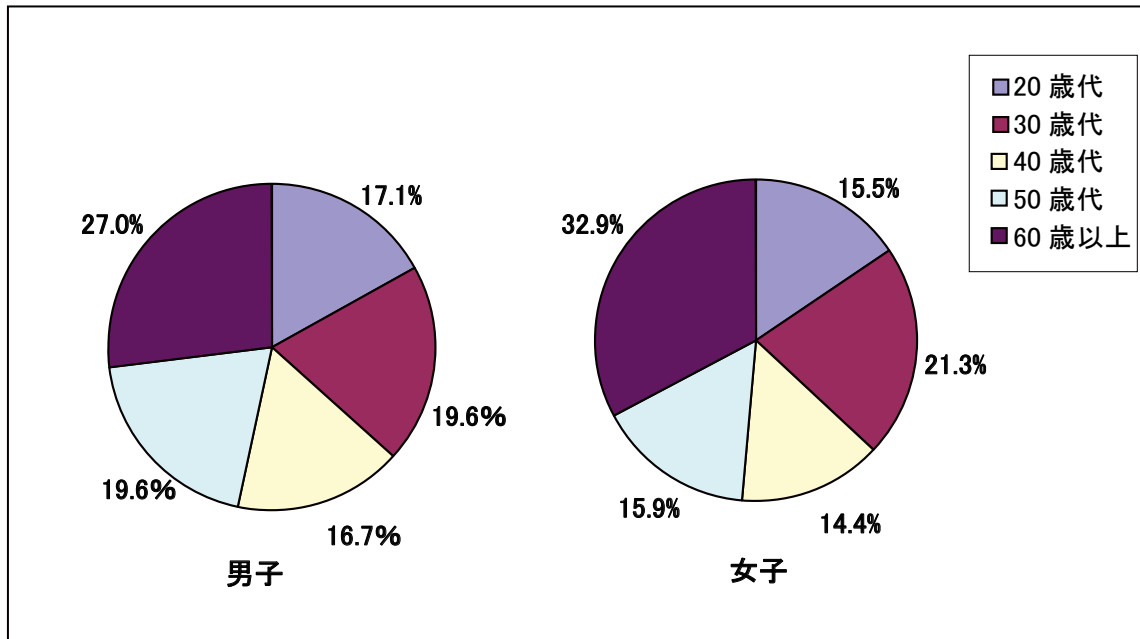


図1：年齢

居住地では市内居住者が86.7%を占めているが、これは市外居住者による市内への通勤人口を市政モニター員の募集時に一定程度制限を掛けているためである。市内をさらにブロックに分けてみると、東部ブロック（22.8%）と南部ブロック（24.2%）に若干の偏りが観察されるが、他のブロックは概ね10%~15%となっている。ブロックの区割りについては、下記区割り表を参照されたい。

「大阪市総合計画21」の区分に基づく

- A 中心ブロック 北・福島・中央・西・天王寺・浪速の6区
- B 西部ブロック 此花・港・大正・住之江の4区
- C 北部ブロック 西淀川・淀川・東淀川の3区
- D 東部ブロック 都島・東成・生野・旭・城東・鶴見の6区
- E 南部ブロック 阿倍野・住吉・東住吉・平野・西成の5区
- F 市外(第1次圏域)
- G 市外(第2次圏域)

2. 職業・就労

仕事を有している回答者は約7割（男子82.5%、女子57.0%、合計69.8%）だが、その仕事内容は男子の場合「常雇一般従業者」が最大で58.8%、女子では「臨時雇い・パート・アルバイト」が36.1%で最も多い。また「自営業主・従事者」が2割程度認められ、自営関係者の多い点で同じ大都市とはいえ東京とは異なる大阪市の特徴を指摘できる。

雇用問題化している「派遣社員」は男子で3.5%、女子で8.4%であるが、これに「臨時雇い」などを加えてみるといわゆる不安定就労者は男子で15.8%、女子の場合若干その意味は異なるにせよ4割以上が該当する。

仕事の内容は、男子では「管理的職業」が12.6%であるのを他の職種はおしなべて2割前後でほぼ等しく分散している。女子ではこれが「事務・営業系」に36.5%と偏っている。

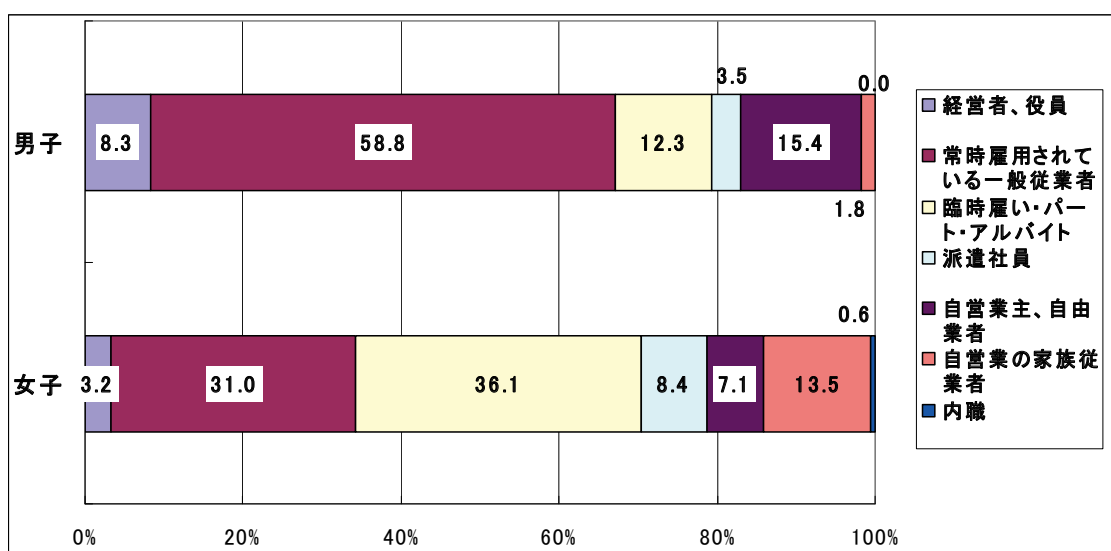


図2：仕事の内容

1週間あたりの就業時間は、男子に長時間、女子はこれに比べて短時間が大まかな傾向であるが、女子では「20時間未満」(24.2%)、「30～39時間」(25.5%)、「40～48時間」(24.8%)と、それぞれが約4人に1人の割合特徴を示す。他方男子では、「40～48時間」が最頻値で35.2%、次いで「49～59時間」が22.6%となっている。男子では週80時間以上も5.7%観察されている。